

大平山元遺跡と北海道・北東北の縄文遺跡群の取組み



西暦	和暦	大平山元遺跡	縄文遺跡群世界遺産
1971	昭和46	石斧の発見	
1972	昭和47		国連において世界遺産条約が採択される
1975	昭和50	県立郷土館大平山元Ⅰ遺跡の学術調査	
1976	昭和51		
1977	昭和52	県立郷土館大平山元Ⅱ遺跡の学術調査	
1978	昭和53		
1979	昭和54	県立郷土館大平山元Ⅲ遺跡の学術調査	
1989	平成元	町教育委員会 大平山元Ⅱ遺跡の発掘調査	
1992	平成4		世界遺産条約に日本が締結する
1998	平成10	調査団 大平山元Ⅰ遺跡の発掘調査	
2000	平成12		
2001	平成13		
2002	平成14	町教育委員会 大平山元Ⅰ遺跡の学術調査(H12～16)	
2003	平成15	大山ふるさと資料館開館(H13)	
2004	平成16	町教育委員会 大平山元Ⅱ遺跡の発掘調査(H15～18)	
2005	平成17	県教育委員会 大平山元Ⅱ遺跡の発掘調査(H15)	
2006	平成18	町教育委員会 大平山元Ⅱ・Ⅲ遺跡他の学術調査(H18～20)	
2007	平成19		外ヶ浜町が縄文遺跡群の共同提案に参加する
2008	平成20		暫定一覧表への記載が決定
2009	平成21		暫定一覧表へ記載される 構成資産は15
2010	平成22		
2011	平成23	総括報告書の刊行	
2012	平成24	意見具申書の提出、文化審議会答申	構成資産を15から18へ増やす
2013	平成25	史跡指定(名称:大平山元遺跡)	
2014	平成26	追加指定の意見具申書 公有地化事業開始	
2015	平成27	文化審議会答申、追加指定	構成資産を18から16へ減らす
2016	平成28	保存管理計画書刊行	構成資産のひとつを分け16から17へ
2017	平成29	整備基本構想策定	
2018	平成30	整備基本計画策定	推薦候補に選定 自然遺産を優先する
2019	令和元	第1期整備基本設計 県重宝指定(Ⅰ遺跡郷土館・調査団)	推薦候補に選定
2020	令和2	第1期整備工事開始	推薦書をユネスコへ提出 イコモスの現地視察
2021	令和3	遺跡広場駐車場完成	イコモス勧告 記載決定
2021	令和3	7月27日 北海道・北東北の縄文遺跡群が世界文化遺産に登録	
2024	令和6	大平山元遺跡展示施設「むーもん館」完成:第1期整備工事完了	

※構成資産

北海道:キウス周堤墓群(千歳市)、北黄金貝塚(伊達市)、入江貝塚(洞爺湖町)、高砂貝塚(洞爺湖町)、大船遺跡(函館市)、垣ノ島遺跡(函館市)
 青森県:三内丸山遺跡(青森市)、小牧野遺跡(青森市)、是川石器時代遺跡(八戸市)、大森勝山遺跡(弘前市)、亀ヶ岡石器時代遺跡(つがる市)、
 田小屋野貝塚(つがる市)、大平山元遺跡(外ヶ浜町)、ニツ森貝塚(七戸町)
 秋田県:大湯環状列石(鹿角市)、伊勢堂岱遺跡(北秋田市) 岩手県:御所野遺跡(一戸町)
 【関連資産】北海道:鷲の木遺跡(森町)、青森県:長七谷地貝塚(八戸市)

所在地情報

大平山元遺跡(連絡先は外ヶ浜町教育委員会)
 青森県東津軽郡外ヶ浜町字蟹田大平山元
 電話:0174-31-1233 FAX:0174-31-1234
 メール:kyouiku-sotogahama@town.sotogahama.lg.jp

大平山元遺跡展示施設「むーもん館」
 青森県東津軽郡外ヶ浜町字蟹田大平沢辺46-4
 電話・FAX:0174-22-2577

アクセス

- ・JR津軽線蟹田駅から車で10分
- ・北海道新幹線奥津軽いまべつ駅から車で15分
- ・青森空港から車で60分
- ・東北自動車道青森ICから車で45分



世界文化遺産 北海道・北東北の縄文遺跡群

～縄文時代の始まりを示す遺跡～
 おお だ い や ま も と

史跡 大平山元遺跡



青森県外ヶ浜町
 大平山元遺跡もりあげ隊





国史跡「大平山元遺跡」とは

列島各地との関係性を示す石器が多く見つかる希少な遺跡

国史跡「大平山元遺跡」は、石器の材料となる岩石(珪質頁岩)が採取できる蟹田川の近くにあります。後期旧石器時代後半期から縄文時代草創期まで、石器などの特徴の移り変わりを追うことができる遺跡です。

旧石器時代の石器などの特徴では、主に関東地方や中部地方で見られる石器、北海道で流行した石器、西日本との関係がある石器などが見つかっています。これらのような日本列島各地との関係性を示す石器が多く見つかる遺跡は、北日本では他に例がありません。縄文時代草創期では、無文土器片が見つかり、石鏃(矢じり)や大型の石刃(ナイフの素材)のまとまりなどがあります。

「1万5千年以上前の土器片」縄文時代という新しい時代へ

北海道・北東北の縄文遺跡群の関わりについては、史跡の本質的な価値のなかでは、道具の移り変わり、土器を生み出し、年代が判明しているところが大切です。年代は、土器片に付着していた炭化物を分析し、今から約1万5千年以上前に使われことがわかっています。煮炊きに使った土器がみつき、定住のめばえがわかる遺跡です。弓矢も使われはじめ、縄文時代という新しい時代へ変わっていく様子がわかります。

「縄文遺跡群」1万年以上にわたる定住の発展と成熟

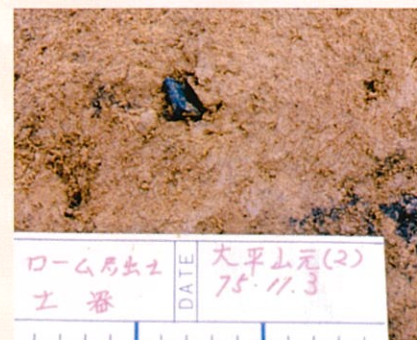
北海道・北東北の縄文遺跡群は、採集・漁労・狩猟を生業に1万年以上も続いた人々のくらしや精神文化を今に伝える貴重な文化遺産です。日本列島北部では、ブナ・クリ・クルミなどの森林資源や暖流・寒流が交わる海域が育んだ水産資源を背景に、今から約1万5千年前に定住がはじまりました。その後、1万年以上にわたり農耕に移行することなく、採集・漁労・狩猟による定住を発展・成熟させました。この間、精緻で複雑な精神文化も育まれ、環状列石や周堤墓などの祭祀・儀礼の場も充実しました。17の遺跡で構成されており、6つのステージ、定住の開始(1居住地の形成2集落の成立)、定住の発展(3集落施設の多様化4拠点集落の出現)、定住の成熟(5共同祭祀場と墓地の進出6祭祀場と墓地の分離)にわけられ、大平山元遺跡は、その最初のステージ(1居住地の形成)に位置づけられています。



拾われた
神子柴型石斧



無文土器片



土器発見時の写真

大平山元遺跡 一発見から史跡指定と世界文化遺産登録までのあゆみ

中学生が拾った石器がきっかけで「無文土器片」が発見

大平山元遺跡は、1971(昭和46)年、町内の中学生の張山君が拾った石器を恩師の一町田工先生が青森県立郷土館に持ち込んだことを契機に学術的な発掘調査が実施されました。大平山元Ⅰ遺跡と名付けられ、拾われた石器が神子柴形石斧だったことから、担当者の三宅徹也氏が期待していたとおり無文土器片が見つかり、神子柴・長者久保石器群に土器が伴うことを明らかにした考古学史上、重要な結果を示した調査でした。さらに、発掘調査中の住民の情報や踏査によって、大平山元Ⅱ遺跡、大平山元Ⅲ遺跡と遺跡が発見され、続けて学術調査が行われました。ナイフ形石器やいわゆる有樋尖頭器や舟底形の細石刃核等いくつかの石器群が確認されました。県内の旧石器時代解明をリードする大きな成果を得ることができました。

幾度の調査を経て国の「史跡」へ

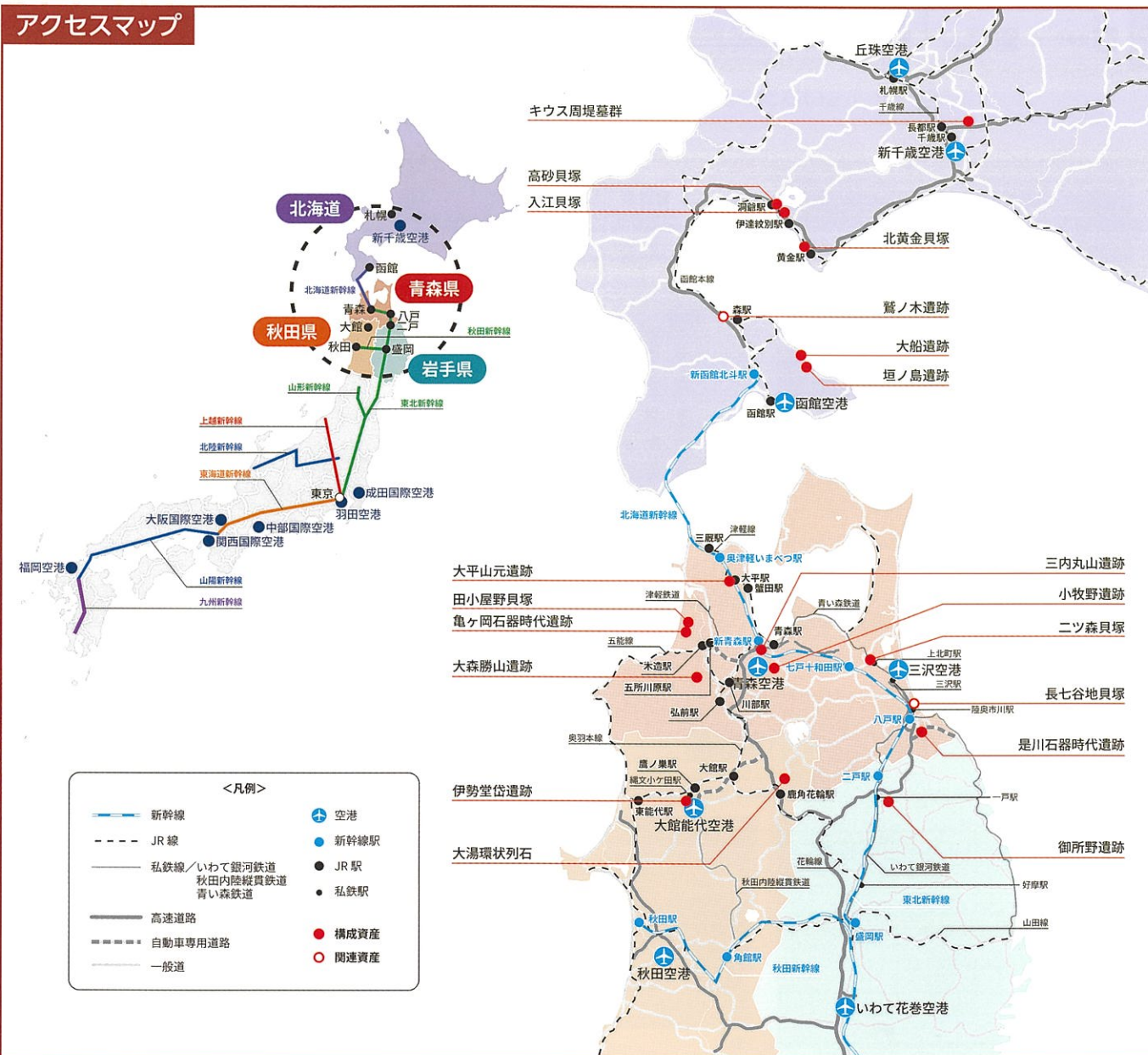
また、大平山元Ⅱ遺跡は、地区会館の建替による発掘調査により、湧別技法による細石刃石器群の接合資料が見つかり、日本列島各地との関係を示す、北日本では他に例がない遺跡となりました。その後、住宅建設に伴って大平山元Ⅰ遺跡の発掘調査を調査団(团长谷口康浩氏: 國學院大學文学部)が行い、土器に付着していた炭化物の年代測定を実施、較正年代を示し、その年代や土器の出現等について問題を提起しました。続く町教委の学術調査により範囲や価値付けが行われ、大平山元Ⅰ遺跡の範囲全てと大平山元Ⅱ遺跡の一部の範囲が、大平山元遺跡として2013(平成25)年に国の史跡として指定されました。資料は、青森市の青森県立郷土館と大平山元遺跡展示施設「むーもん館」で見ることができます。なお、大平山元Ⅰ遺跡の資料は、郷土館学術調査と調査団発掘調査一式が、2019(平成31)年4月に県重宝の指定を受けています。

世界文化遺産へ

「北海道・北東北の縄文遺跡群」は、2019(令和元)年、国の文化審議会によって、世界文化遺産への推薦候補に選ばれ、翌年文化庁は、推薦書をユネスコへ提出しました。これによって、ユネスコの諮問機関であるイコモスが現地を視察し、2021(令和3)年、第44回世界遺産委員会拡大合会で世界文化遺産登録が決定されました。

- ※1 神子柴型石斧…縄文時代はじめの頃の、全体の型は打製、刃の部分だけを研磨するなどの特徴的な石斧。長野県の神子柴遺跡から見つかった石斧に由来。
- ※2 神子柴・長者久保石器群…縄文時代はじめの頃の神子柴型石斧や石刃素材のナイフ等の特徴とし、土器が伴うこともある。神子柴・長者久保文化とも言う。長野県の神子柴遺跡と青森県の長者久保遺跡に由来。
- ※3 石刃…旧石器時代を特徴づける、長さが幅の倍以上あるもの。薄く短冊のような形で連続的に作る。割られて残った方は石刃核という。
- ※4 有樋尖頭器…旧石器時代の後半期の頃、主に両面を加工した石槍(尖頭器)の1側縁に沿った縦長の割れ(加工)を作るもの。
- ※5 細石刃…旧石器時代の終わり頃に発達し、各地で独特の作り方(製作技法)があるものの、長さ2、3センチ、幅1センチほどの小さな石刃を連続的に作る。割られて残った方を細石刃核という。
- ※6 湧別技法…細石刃の作り方の種類のひとつ。北海道北部を中心に本州まで広範囲に見つかる。両面を加工した石器の1側縁を側縁に沿って剥ぎ取るように割り、その割れ面から、短軸方向に向きを変え細石刃を連続的に作る。
- ※7 較正年代…炭素を含む有機物の年代を測定する14C年代測定値を暦の年代にプログラムを使って算出した年代。

アクセスマップ



公式サイト「世界遺産 北海道・北東北の縄文遺跡群」



トップページ



公式サイト
<https://jomon-japan.jp>

キッズサイト「JOMONぐるぐる」



キッズサイト
<https://jomon-japan.jp/kids>

縄文遺跡群世界遺産本部

北海道、青森県、岩手県、秋田県、函館市、千歳市、伊達市、森町、洞爺湖町、青森市、弘前市、八戸市、つがる市、外ヶ浜町、七戸町、一戸町、鹿角市、北秋田市
(事務局 青森県 jomon@pref.aomori.lg.jp)



縄文遺跡群ロゴマーク

全体を縄文土器に見立て、北海道と北東北の形を、縄文文化のパワーを象徴するような渦巻きの形で繋いでいます。図形の色は縄文文化の漆器や土器にみられる赤漆色とし、構成資産の分布している範囲を濃い目の色のグラデーションで表現しています。デザインの左右に「縄文」の文字を、下部に「JOMON JAPAN」の文字を配置しました。「JAPAN」には「漆」の意味もあります。

世界遺産 北海道・北東北の 縄文遺跡群

Jomon Prehistoric Sites in Northern Japan



特別史跡 三内丸山遺跡 (青森市)



特別史跡 大湯環状列石 (鹿角市)



史跡 北黄金貝塚 (伊達市)



史跡 御所野遺跡 (一戸町)

世界遺産登録までの歩み

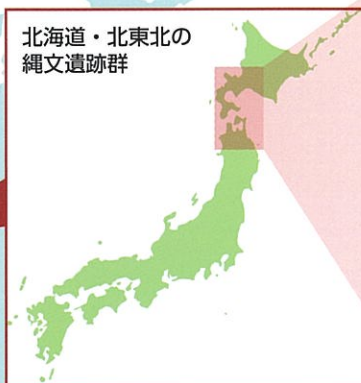
北海道・北東北は、世界遺産「白神山地」や「知床」をはじめとした美しい自然が今なお色濃く残る緑豊かなところだ。

この自然の恵みを受け、先人たちは1万年以上の長きにわたり、採集・漁労・狩猟を基盤とした定住を発展・成熟させ、精緻で複雑な精神文化を育みまし

た。我が国最大級の縄文集落跡である特別史跡三内丸山遺跡（青森市）や大規模な記念物である特別史跡大湯環状列石（鹿角市）をはじめ、北海道から北東北に残る数多くの縄文遺跡は、我が国の歴史と文化の成り立ちを今に伝える貴重な文化遺産だ。

これらを人類共通の宝として未来へ継承していくため、北海道、青森県、岩手県、秋田県及び函館市、千歳市、伊達市、森町、洞爺湖町、青森市、弘前市、八戸市、つがる市、外ヶ浜町、七戸町、一戸町、鹿角市、北秋田市では、北海道・北東北の縄文遺跡群の世界遺産登録を目指して活動を推進してきました。

2021年7月27日、ユネスコ世界遺産委員会は、北海道・北東北の縄文遺跡群を農耕社会以前の人々の生活と精神文化を示す稀有な文化遺産として、世界遺産一覧表に記載することを決議しました。



経緯

- 2007年 8月 北海道・北東北知事サミットで、4道県が「北海道・北東北の縄文遺跡群」を共同で提案することを確認
- 2009年 1月 ユネスコの世界遺産暫定一覧表に記載
- 2009年 6月 縄文遺跡群世界遺産登録推進本部を設置（本部長 三村 申吾 青森県知事）
- 2018年 7月 国内の世界文化遺産推薦候補に選定
- 2019年 12月 政府によるユネスコへの推薦が決定
- 2020年 1月 ユネスコに登録推薦書を提出
- 2020年 9月 国際記念物遺跡会議（ICOMOS）による現地調査
- 2021年 5月 ICOMOSから世界遺産一覧表への記載が適当との勧告
- 2021年 7月27日 第44回世界遺産委員会拡大合会で記載決定

構成資産

北海道・北東北の縄文遺跡群は、北海道6遺跡、青森県8遺跡、岩手県1遺跡、秋田県2遺跡の合計17遺跡で構成されています。

また、理解の一助となる関連資産が北海道と青森県に合計2遺跡あります。



顕著な普遍的価値

北海道・北東北の縄文遺跡群は、農耕社会以前の人々の生活と複雑な精神性を示す17の考古遺跡から構成され、紀元前13,000年頃から紀元前400年頃にかけて北東アジアで発展した狩猟・漁労・採集社会における定住の開始、発展、成熟を示す稀有な物証として、顕著な普遍的価値が認められます。

評価基準への適合

世界遺産委員会は、評価基準の(iii)及び(v)の下に、世界遺産一覧表に記載することを決議しました。

評価基準 (iii)	現存するか消滅しているかにかかわらず、ある文化的伝統又は文明の存在を伝承する証拠として無二の存在(少なくとも稀有な存在)である。
---------------	--

北海道・北東北の縄文遺跡群は、1万年以上もの長期間継続した狩猟・漁労・採集を基盤とした、世界的にも稀な定住社会と、足形付土版、有名な遮光器土偶などの考古遺物や墓、捨て場、盛土、環状列石などの考古遺構から明らかなように、そこで育まれた精緻で複雑な精神文化を伝える類まれな物証です。

評価基準 (v)	ある一つの文化(または複数の文化)を特徴づけるような伝統的居住形態若しくは陸上・海上の土地利用形態を代表する顕著な見本、又は人類と環境のふれあいを代表する顕著な見本である(特に不可逆的な変化によりその存続が危ぶまれているもの)。
-------------	--

北海道・北東北の縄文遺跡群は、定住の開始からその後の発展、最終的な成熟に至るまでの、集落の定住の在り方と土地利用の顕著な見本です。縄文人は農耕社会に見られるように土地を大きく改変することなく、気候の変化に適応することにより永続的な狩猟・漁労・採集の生活の在り方を維持しました。食料を安定的に確保するため、サケが遡上し、捕獲できる河川の近くや汽水性の貝類を得やすい干潟近く、あるいはブナやクリの群生地など、集落の選地には多様性がみられます。それぞれの立地に応じて食料を獲得するための技術や道具類も発達しました。

完全性・真実性

資産を構成する17の構成資産の範囲は個々で適切であり、資産の顕著な普遍的価値を示す属性を満たしています。考古遺構のほとんどは何千年間、良好な状態で地下に保存されており、各構成資産の位置、形状・意匠、材料・材質、用途・機能、伝統・技能、精神性・感性について真実性が保持されています。

保存管理

資産を構成する17の構成資産は文化財保護法により史跡又は特別史跡に指定されています。各構成資産の周囲には緩衝地帯が設定され、法的規制措置が講じられています。

資産全体の保存管理の基本方針を示した包括的保存管理計画を策定し、その計画に基づいて縄文遺跡群世界遺産保存活用協議会が保存・活用を推進しています。

(世界遺産委員会決議44COM 8B.37を一部抜粋)

特徴1 自然の資源をうまく利用した生活を示すこと

森や海、川などの自然の恵みを持続的に管理・利用することによって、1万年以上もの長期にわたって、農耕社会に移行することなく、気候の温暖化や寒冷化にも適応しながら、採集・漁労・狩猟を生業に定住したことを伝えます。



クリ・クルミ・トチノキ



石槌

特徴2 祭祀・儀礼を通じた精緻で複雑な精神性を示すこと

死者を埋葬する墓地、祭祀・儀礼の場として使われた貝塚や盛土、組石を円環状に配置した環状列石のほか、足形付土版や土偶などの出土品によって、定住生活の初期段階から、人々が複雑な精神文化を発展させたことを伝えます。



土偶



足形付土版

特徴3 集落の立地と生業との関係が多様であること

食料を安定的に確保するため、人々はサケが遡上する河川付近や木の実が豊富な丘陵や山地、魚や貝が捕れる内湾や湖沼沿岸など多様な地形に集落を営み、その立地環境に合わせて食料を獲得するための技術や道具を発達させました。



北黄金貝塚(北海道伊達市)

特徴4 集落形態の変遷を示すこと

紀元前13,000年頃に定住が始まりました。その後も、農耕社会に見られるように土地を大きく改変することなく、気候の温暖化や寒冷化などの環境変化にも適応しながら、生活の拠点となる集落形態を変えてきたことを示します。

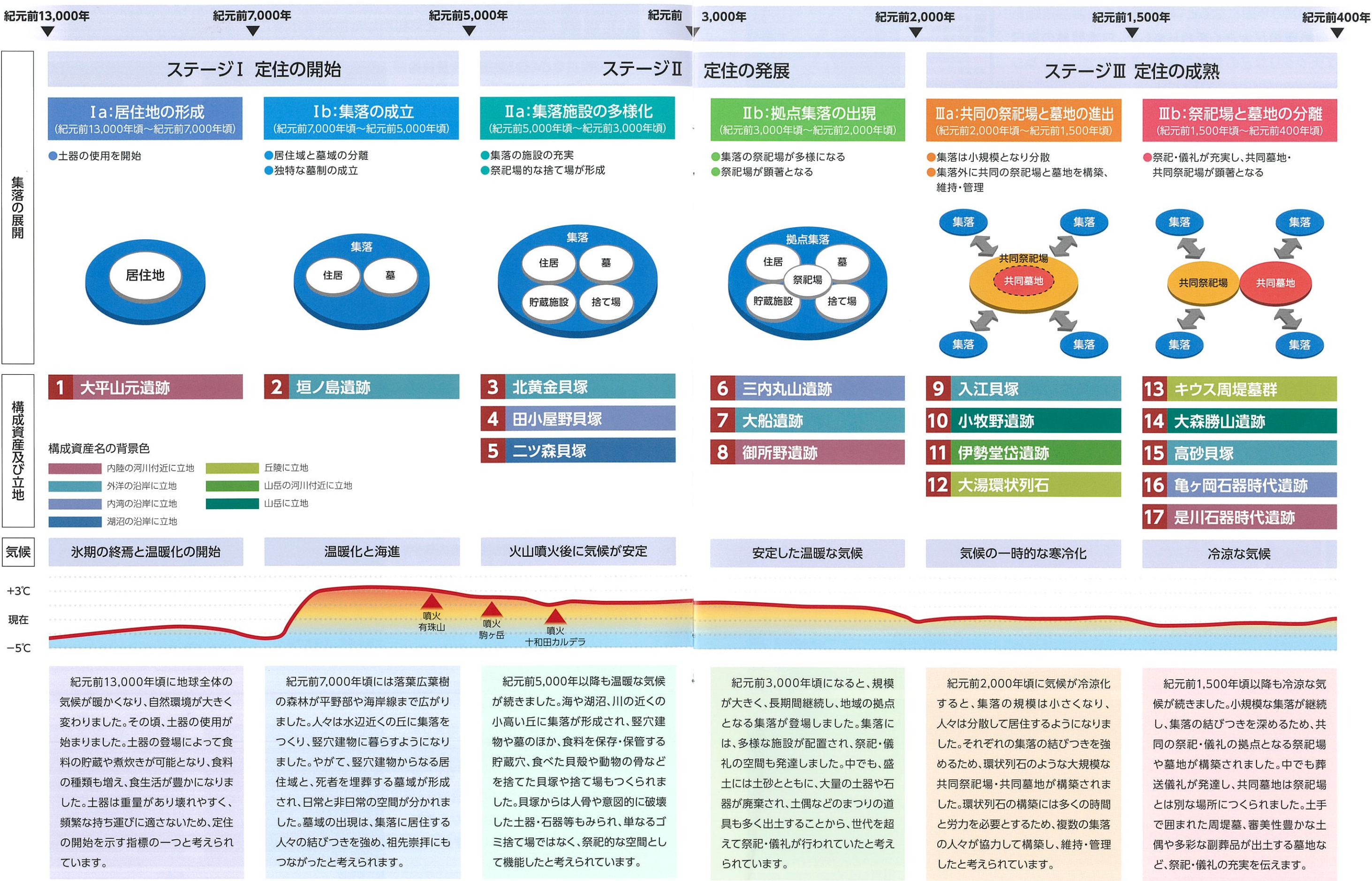


竪穴建物跡



貯蔵穴

集落展開及び精神文化に関する6つのステージ

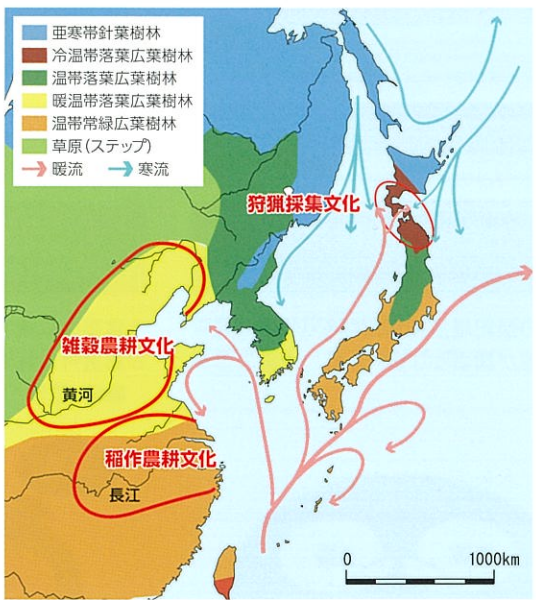


北東アジアの先史文化と縄文遺跡群

紀元前13,000年頃になると、地球規模で急激な温暖化が進み、自然環境が大きく変わりました。日本列島の東日本ではブナやクリなどの落葉広葉樹、西日本ではカシやシイなどの常緑広葉樹（照葉樹）の森林が広がりました。動物も大型動物が絶滅し、シカやイノシシなど中型・小型の動物が多くなりました。

このような環境変化に適応するかたちで、人々の生活も移動（遊動）から定住（特定の場所に一定期間住み続ける生活）へと変わりました。中国大陸の長江（揚子江）中・下流域では稲作農耕、黄河中・下流域から遼河流域ではアワ・キビの雑穀農耕、中国東北部からロシア極東、朝鮮半島、そして日本列島では狩猟・採集・漁労を基盤として定住が成立しました。

北東アジアの狩猟採集文化は、食料となるクルミなどの堅果類をもたらす森林資源、川や海の水産資源を背景に発展しました。中でも、縄文遺跡群は、紀元前13,000年頃から紀元前400年頃にかけて、1万年以上にわたって農耕文化へと移行することなく、狩猟・漁労・採集を基盤とした定住の開始から発展、成熟に至るまでの過程と、そこで育まれた精緻で複雑な精神文化を具体的に示す稀有な資産です。

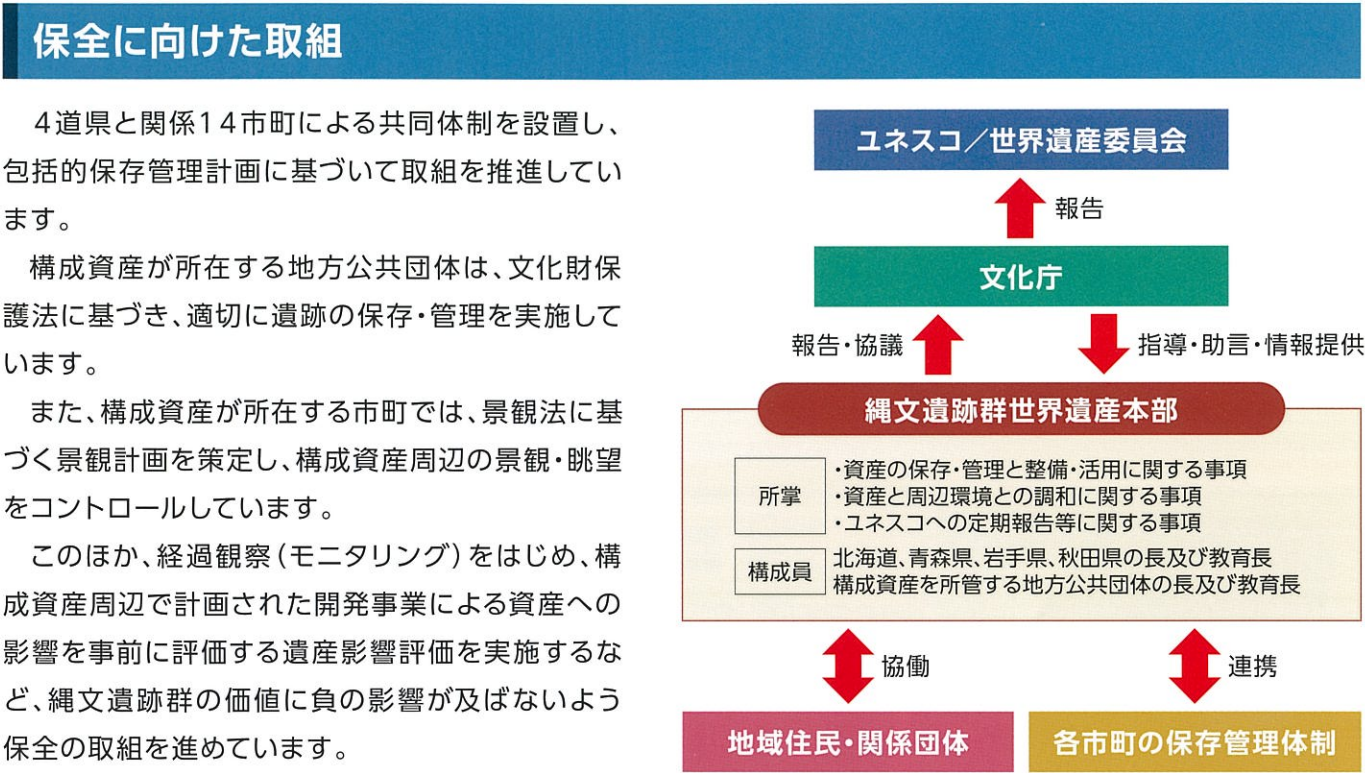


世界史の中の縄文時代

日本の歴史では、採集・漁労・狩猟を生業に定住が営まれた時期を「縄文時代」と呼んでいます。移動生活を営んだ旧石器時代に続き、本格的な稲作農耕が始まる弥生時代の前に位置付けられています。縄文時代は日本独特の時代区分であり、世界史では旧石器時代から新石器時代、青銅器時代の一部に相当します。

保全と活用

かけがえのない文化遺産を守り、次の世代に継承するため、適切な保全と公開・活用に取り組んでいます。



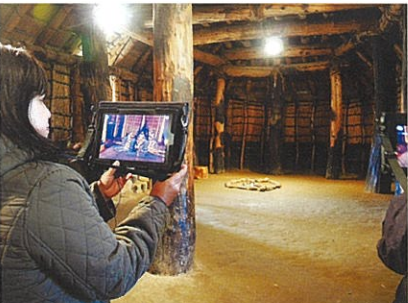
活用に向けた取組

遺跡では、来訪者が資産の価値を理解できるよう、当時の景観を体感できる整備を進めています。地域住民からなるガイドが遺跡の案内を行っているほか、スマートフォンによる音声ガイド、タブレット端末を通じて発掘調査や当時の生活を見ることができるガイドシステムによる情報提供も行われています。

また、土器や土偶、アクセサリーなど、縄文時代の人々の知恵や技術に触れる体験プログラムをはじめ、縄文まつりやフォーラムの開催など普及啓発、来訪・周遊を促進するための情報発信などに取り組んでいます。



来訪者に遺跡の価値を伝えるガイド



タブレット端末を用いたガイド

新施設紹介

**あおもり縄文ステーション
じょもじょも**

住／〒038-0012 青森県青森市柳川一丁目1番5号
☎017-752-1191
🕒10:00～19:00 (4～5月 (GW期間を除く)、10月～3月)
10:00～20:00 (GW期間、6月～9月)
休／12月30日～1月1日、臨時休所 (設備保守点検等)
※無料
※男女トイレ、多目的トイレ、授乳室あり

青森の8遺跡がよくわかる

最新情報及びガイド等の申込みについては、各施設の公式サイトをご覧ください。

3

きたこがね 史跡 北黄金貝塚

北海道
伊達市

有料・要予約

IIa:紀元前5,000年頃～紀元前3,500年頃(史跡年代:紀元前5,000年頃～紀元前2,000年頃)

クジラの骨でできた刀

内浦湾をのぞむ丘陵上に立地する集落跡。貝塚からは、貝殻、魚骨、動物の骨や角を加工した道具が多数出土し、海進・海退などの環境変化に適応した漁労を中心とした暮らしを伝えます。低地にある水場遺構では、意図的に壊された石皿やすり石などの石器が大量に確認され、廃棄に伴う祭祀・儀礼が行われていたと考えられています。

北黄金貝塚情報センター

住/〒059-0272
北海道伊達市北黄金町75
☎/0142-24-2122
🕒/9:00～17:00
休/冬期(12/1～3/31)
¥/無料

遺跡と
隣接



6

さんないまるやま

特別史跡 三内丸山遺跡

青森県
青森市

団体は要予約
三内丸山遺跡センター観覧料必要
センター休館時は見学不可

Ⅱb:紀元前3,000年頃～紀元前2,200年頃(史跡年代:紀元前3,900年頃～紀元前2,200年頃)

遺跡と隣接



土偶



陸奥湾をのぞむ段丘上に立地する大規模な拠点集落。竪穴建物や大型竪穴建物、墓、貯蔵穴、掘立柱建物、捨て場や盛土などが配置されています。膨大な量の土器や石器、日本最多の2,000点を超える土偶、祭祀遺物、多種多様な動物骨や魚骨、フリヤクルミなどの堅果類なども出土し、季節に応じて巧みに自然資源を利用していたことを伝えます。

三内丸山遺跡センター

住 / 〒038-0031
青森県青森市三内丸山305

☎ / 017-766-8282

① / 9:00～17:00(6～9月及びGWは～18:00)
休 第4月曜日(祝・休日の場合は翌日)、
年末年始(12/30～1/1)

¥ / 大人 410円
高校・大学生等 200円





北海道・北東北の縄文遺跡群（構成資産・関連資産）

最新情報及びガイド等の申込みについては、各施設の公式サイトをご覧ください。



7

史跡 大船遺跡

おおふね

北海道 函館市

定時解説あり
(4~10月)

9:00~17:00
(11~3月は~16:00) (休場12/29~1/3)

Ⅱb:紀元前2,500年頃~紀元前2,000年頃(史跡年代:紀元前3,500年頃~紀元前2,000年頃)



すり石と石皿

太平洋をのぞむ段丘上に立地する拠点集落。深さ2mを超える竪穴建物や貯蔵穴、墓、盛土などが配置されています。盛土には膨大な量の土器・石器、焼土などが積み重なり、長期間にわたって祭祀・儀礼が行われていたことを示します。クジラ、マグロなどの海獣骨や魚骨、クリやクルミなどの堅果類も出土し、沿岸地域における生業と精神文化を伝えます。

函館市縄文文化交流センター

住/〒041-1613
北海道函館市白尻町551-1
☎/0138-25-2030
①/9:00~17:00(11~3月は~16:30)
休/月曜日(祝・休日の場合は翌日)、毎月最終金曜日、
年末年始(12/29~1/3)
¥/大人 300円 小学生~大学生 150円
施設ガイド/要予約

遺跡まで
車で約10分





8

史跡 御所野遺跡

ごしよの

岩手県 一戸町

遺跡ガイドは5~
10月の土日祝日は
事前予約不要。その他の
期間及び団体は要予約。

Ⅱb:紀元前2,500年頃~紀元前2,000年頃(史跡年代:紀元前2,500年頃~紀元前2,000年頃)



土器

馬淵川沿いの段丘上に立地する拠点集落。東西に長い台地の中央に配石遺構を伴う墓域、祭祀場である盛土が形成され、その周囲に大型・中型・小型の竪穴建物が配置されています。盛土からは、大量の土器や石器とともに、焼けた動物骨や堅果類、土偶などのまつりの道具が出土し、火を用いた祭祀・儀礼が繰り返し行われたことを伝えます。

御所野縄文博物館

住/〒028-5316
岩手県二戸郡一戸町岩館字御所野2
☎/0195-32-2652
①/9:00~17:00
休/月曜日(祝日の場合は翌日)、祝日の翌日、
年末年始
¥/(観覧料)大人 300円
大学生 200円
小学生~高校生 無料

遺跡と
隣接





9

史跡 入江・高砂貝塚(入江貝塚)

いりえ・たかさご

北海道 洞爺湖町

貝類展示施設
9:00~17:00

Ⅲa:紀元前1,800年頃(史跡年代:紀元前3,500年頃~紀元前800年頃)



銚頭

内浦湾をのぞむ段丘上にある貝塚を伴う集落跡。貝塚からは貝殻・魚骨・海獣骨のほか、動物の骨や角を加工した釣針や銚などが出土し、漁労を中心とした生業を示します。墓域からは、幼い頃に筋萎縮症に罹患したとみられる成人人骨が見つかり、集落内で手厚い介護を受けながら生きながらえたことを伝えます。

史跡公園貝類露出展示

入江・高砂貝塚館

住/〒049-5605
北海道虻田郡洞爺湖町高砂町44
☎/0142-76-5802
①/9:00~17:00
休/月曜日(祝・休日の場合は翌日)、祝・休日の翌日、
冬期(12/1~3/31)
¥/大人 150円
小学生~高校生 100円

遺跡まで
徒歩約5分



遺跡

遺跡ガイド

遺跡公開時間

施設

住/住所
休/休館日

☎/電話番号
¥/見学科金

①/開館時間

施設ガイド
音声ガイド

体験
プログラム

飲食
施設

グッズ
販売

Wi-Fi

コイン
ロッカー

乳幼児
施設

車椅子
貸出



10

史跡 小牧野遺跡

こまきの

青森県 青森市

要予約
冬期(11/16~4/30)は
遺跡閉鎖

Ⅲa:紀元前2,000年頃(史跡年代:紀元前2,000年頃)



三角形岩版

八甲田山西麓に広がる台地上に立地する祭祀遺跡。環状列石は、中央帯・内帯・外帯の三重となり、その周囲に一部四重となる列石もみられ、全体で直径55mになります。内帯と外帯は楕円形の石を縦・横に配置して円環が形成されています。環状列石やその周囲から土偶やミニチュア土器、三角形岩版などのまつりの道具が出土しています。

青森市小牧野遺跡保護センター
縄文の学び舎・小牧野館

住/〒030-0152
青森県青森市大字野沢字沢部108-3
☎/017-757-8665
①/9:00~17:00
休/年末年始(12/29~1/3)
¥/無料

遺跡まで
車で約5分





11

史跡 伊勢堂岱遺跡

いせどうたい

秋田県 北秋田市

要予約
9:00~17:00(縄文館休館時及び
冬期(11月~4月下旬)は遺跡閉鎖)

Ⅲa:紀元前2,000年頃~紀元前1,700年頃(史跡年代:紀元前2,000年頃~紀元前1,700年頃)



土偶

米代川近くの段丘上に立地する祭祀遺跡。遠方の山並みが一望できる段丘北西端に4つの環状列石が隣接して配置されています。いずれも直径30m以上で、最大のものは直径約45mです。環状列石の周囲からは、土偶や動物形土製品、鐸形土製品、岩版、三脚石器、石剣などのまつりの道具が多数出土しています。

伊勢堂岱縄文館

住/〒018-3454
秋田県北秋田市監神字小ヶ田中田100-1
☎/0186-84-8710
①/9:00~17:00
休/月曜日(祝・休日の場合は翌日)、年末年始(12/29~1/3)
¥/無料
施設ガイド/要予約

遺跡と
隣接





12

特別史跡 大湯環状列石

おおゆ

秋田県 鹿角市

要予約
9:00~17:30(11月は~16:00
冬期(11月中旬~4月中旬)は遺跡閉鎖)

Ⅲa:紀元前2,000年頃~紀元前1,500年頃(史跡年代:紀元前2,000年頃~紀元前1,500年頃)



土版(表) (裏)

大湯川沿いの段丘上に立地する環状列石を主体とする祭祀遺跡。万座と野中堂の2つの環状列石は川原石を組み合わせた配石遺構によって二重の円環が形成され、それぞれに「日時計状組石」が配置されています。環状列石の周囲には掘立柱建物が同心円状に配置され、土偶や鐸形土製品、石刀等などのまつりの道具が数多く出土しています。

大湯ストーンサークル館

住/〒018-5421
秋田県鹿角市十和田大湯字万座45
☎/0186-37-3822
①/9:00~18:00(11~3月は~16:00)
休/11~3月の月曜日(祝・休日の場合は翌日)、
年末年始(12/29~1/3)
¥/(観覧料)大人 320円
小学生~高校生 110円
施設ガイド/要予約

遺跡と
隣接



最新情報及びガイド等の申込みについては、各施設の公式サイトをご覧ください。



いりえ・たかさご

15 史跡 入江・高砂貝塚(高砂貝塚)

北海道
洞爺湖町

Ⅲ紀元前1,000年頃(史跡年代:紀元前3,500年頃～紀元前800年頃)





土偶



内浦湾をのぞむ低地に立地する共同墓地。土坑墓と配石遺構からなる墓域、貝塚が配置されています。土坑墓には、土器や石器、石製品などの副葬品をとめない、ベンガラが散布されています。このほか、抜歯の痕跡が認められる人骨や胎児骨を伴う妊産婦の人骨なども確認され、当時の葬送の様子を伝えます。

遺跡まで
徒歩約5分

入江・高砂貝塚館

住/〒049-5605
北海道虻田郡洞爺湖町高砂町44

☎/0142-76-5802

🕒/9:00～17:00

休/月曜日(祝・休日の場合は翌日)、
冬期(12/1～3/31)

¥/大人 150円
小学生～高校生 100円





17

これかわ
史跡 是川石器時代遺跡

青森県
八戸市

整備のため
遺跡閉鎖中

Ⅲb:紀元前1,000年頃～紀元前400年頃(史跡年代:紀元前4,000年頃～紀元前400年頃)

土器

中居、一王寺、堀田の3つの遺跡から構成されています。なかでも、中居遺跡からは、精巧な土器や土偶、漆が塗られた弓や櫛、腕輪などの漆製品が多数出土し、高い精神性と優れた工芸技術を知ることができます。狩猟具や漁労具、堅果類、魚骨のほか、貯木や堅果類の加工を行ったと推定される水場も確認され、当時の生業の様子を伝えます。

八戸市埋蔵文化財センター 是川縄文館

住/〒031-0023 青森県八戸市是川字横山1

☎/0178-38-9511

🕒/9:00～17:00

休/月曜日(祝・休日の場合は翌日)、
祝・休日の翌日(土曜日・日曜日・祝日の場合は開館)、
年末年始(12/27～1/4)

¥/(観覧料)大人 250円 高校・大学生 150円

施設ガイド/団体の場合は要予約

A

史跡
(関連資産)

ちょうしちやち
長七谷地貝塚

青森県
八戸市

I b: 紀元前6,000年頃 (史跡年代: 紀元前6,000年頃)

骨角製漁労具

遺跡まで
車で約25分

八戸市博物館

住 / 〒039-1166
青森県八戸市根城字東横3-1

☎ / 0178-44-8111 ① / 9:00~17:00
休 / 月曜日 (祝・休日の場合は翌日)、祝・休
日の翌日 (土曜日・日曜日、祝日の場合は
開館)、年末年始 (12/27~1/4)

¥ / (観覧料) 大人 250円
高校・大学生 150円

B

史跡
(関連資産)

わしのき
鷺ノ木遺跡

北海道
森町

団体のみ・
要相談
 見学会開
催時のみ

III a: 紀元前2,000年頃 (史跡年代: 紀元前2,000年頃)

折りまとつりの
道具

遺跡まで
車で約15分

森町遺跡発掘
調査事務所

住 / 〒049-2313
北海道茅部郡森町字森川町292-24

☎ / 01374-3-2240 ① / 9:00~16:00
休 / 土曜日、日曜日、祝・休日、
年末年始 (12/30~1/5)

¥ / 無料

海進期に形成された古奥入瀬湾の沿岸に立地する集落遺跡。貝塚からは、暖かい場所に棲息するハマグリをはじめ、多量の貝殻や魚骨、動物の角や骨を加工した釣針や鈎頭などが出土し、活発に漁労が行われていたことを伝えます。

北海道最大規模の環状列石を伴う祭祀遺跡。環状列石は、楕円形の配石を中心に円環状の列石が二重に巡り、直径約37mのほぼ円形です。周辺には堅穴墓域や配石遺構などもあり、当時の精神文化を伝えます。